

2008年(平成20) 7月

カルメル  
霊性センターニュース



234号



## 第一卷

### 第五章 聖書を読む

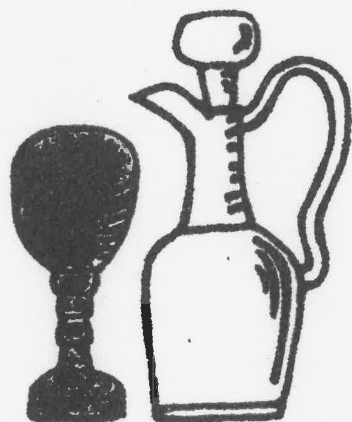
#### 1 靈魂の利益を求め

私たちは聖書の中に、雄弁さではなく、真理を探さなければならない。聖書はすべて、記述されたその精神をもって読まなければならない。聖書には、文章の美しさよりも、むしろ靈魂の利益を探さなければならない。飾りのない信心書も、すぐれた深遠な本を読むのと同様に読まなければならない。作者の權威や、文学的に高いか低いかを問題にしないで、ただ真理への愛に動かされて読まなければならない。誰がそれを書いたかを問題にしないで、何を語っているかに心をとめなさい。

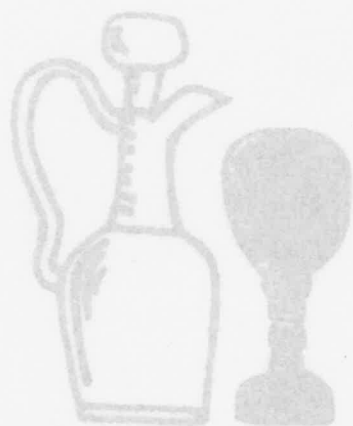
#### 2 神はあらゆる方法で語りかける

人間は過ぎ去る。しかし、「主の真理は、永遠にとどまる」(詩編 117・2)。神は、「あらゆる人を差別しないで」(1ペトロ 1・17)、あらゆる方法で、私たちに語りかける。聖書を読むにあたって、しばしばさまたげとなるのは、単に読みすごしてよい箇所を、詮索し議論しようとする好奇心なのである。もし利益を得ようと思うなら、謙遜に、単純に、信仰をもって読み、学者としての名声を得ようと思わないように。聖なる生活をおこなう人々に、進んで尋ね、だまって彼らの言葉を聞き、老人たちの勧めもしりぞけてはならない。彼らが語る言葉には、それぞれ根拠があるはずだからである。

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

—現代の十字架の聖ヨハネ—

(19)



人生の中で  
一瞬たりとも

神に  
渴かずにいる  
時がないよう  
願いなさい

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

「渴きを覚えているものは皆、水のところに来るがよい。

銀を持たないものも来るがよい。

穀物を求めて食べよ。

来て、銀を払うことなく穀物を求め

価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。」 イザヤ 55・1

神に渴く人は泉のそばに来なさい。その泉は溢れるばかりに豊かで汲みつくせず、渴きをいやしてくれるでしょう。そしてイエスが言われたように、さらに渴きをますでしょう。人生の中で一瞬たりとも神に渴かずにいるときがないようお願いなさい。

聖母はあなたに与えてくださるでしょう。無償で。聖母にお返しをしようと思わないように。聖母は無償で子供たちに与えるのがうれしいのです。

子供が母乳を買ったりしないように。私たちは神のいのちを買ったりはしないのです。神は与えてくださいます。神は与えることを喜びとされます。

無原罪のマリアのルルドご出現から今年150年にあたり、教皇さまは「マリアの年」とされました。1858年2月11日から18回におよぶご出現の最後は、7月16日カルメル山の聖母の祝日でした。その日マリアさまは何も話されませんでした。この「沈黙の聖母」をベルナデッタは最後まで、心にとどめ、「いのちの泉」としていました。多くの人々を癒したルルドの水はベルナデッタの病を癒すことはありませんでしたが、彼女の「神への渴き」は常に潤され癒されていました。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ、

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(37)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

祈りの中で、私たちは神に耳を傾けること以外のことはしません。神は、私たちの心の深奥から私たちに語りかけます。祈りはしばしば、神に語りかけることとみなされ、決して神に耳を傾けることとはみなされません。残念なことに、神に耳を傾けることは、しばしば、話すこと、賛美すること、歌うこと、読むこと等々として理解されています。

祈るために、私たちは傾聴するセンスを研ぎ澄ます必要があります。この傾聴は、耳を通してではなく、心を通してなされるのです。ちょうどマリアが「これらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」(ルカ2:19, 21)のように。

### どのように耳を傾けますか

私たちは楽しいもの、快いもの、メロディー豊かなものに、喜んで耳を傾けます。逆に、荒々しい声やいらいらさせる音や私たちの内に快い感情を生み出さないものを嫌悪します。私たちの耳は、快く、柔らかで音楽的なものに自動的に向かいます。時々、私たちは、周りのたくさんの音を当たり前のものと見なし、メロディー豊かな自然を知ることさえしません。私たちはそれらに耳を傾けず、締め出しています。なぜなら、自然の中に生みだされるそれらの音に耳を訓練してこなかったからです。したがって、傾聴する訓練は、より豊かでより強力な傾聴能力を育てるために必要です。私たちの周りの音に注意する練習として、普通聞くことに慣れていない様々な音に、私たちの耳を訓練しましょう。祈りの間、鳥のさえずりや風の音や動物の音や車の騒音など、いろいろなタイプの音に耳を傾ける訓練をすることができます。さらに、自分自身の呼吸や、自分の体の中で生じるさまざまな音、祈りの間姿勢を変えたり、のどをすっきりさせたり、本を読みながらページをめくったりする時に生じる音に耳を傾ける訓練をすることができます。私たちが徐々にただ一つの音に耳を傾けていくことに成功しだすと、私たちは、他の身体的気づきの練習を行わずに、リラックスするようになります。私たちの周りの音に意識的に耳を傾ける時、それらの音の激しさは弱まり、祈り

へと自然に快く向けられていきます。この練習は、自分自身の中へ深く潜心していくことを助けてくれます。

### あなたは傾聴へと目ざまされる

聞きたいと思う物事に対しては、私たちの聴力がより鋭くなるということは、とても興味深いことです。聞きたくないならば、私たちは聞いていないのです。たとえば、だれかが私に「君を愛している」とか「君は偉大な人だ」とか「君はとても魅力的だ」と言うならば、私はすぐにその人を注意するようになります。私たちは言われた言葉に反応しますが、その言葉の背後にある現実には耳を傾けていません。だれかが「君を愛している」と言う時、私たちは多くのことを確かめるために、立ち止まるべきです。その人やその言葉やその言葉が話された状況にも注意を払うべきです。感情が動かないなら、そこには本当の愛がないということです。それは、単にその人やその場によって、あるいは、あなたがその人に対してもっている好意によって引き起こされた表現にすぎないことに気づくでしょう。その瞬間、おそらく私たちは、その言葉を文字通り信じたかもしれません。実際は、私たちが傾聴に失敗したということです。私たちが言葉を聞きました。けれども、現実には耳を傾けることには失敗したのです。

時々、私たちはとても注意深くなります。このことは特に、緊張をもたらす状況において真実です。だれかが私たちをなぐろうと近づいてくるならば、私たちの傾聴能力はほとんど二倍となります。危険の中にいる時、たとえば森を通ったり、狭い橋を渡ったりする時、私たちは音により注意深くなります。私たちはすべてに耳を傾けています。私たちは、異なった質の注意深さをもって歩いています。一枚の葉の動きでさえ、私たちを驚かします。橋のへりのほんのわずかな音も、私たちの注意をすぐに引きつけます。そのような状況では、私たちの耳は、私たちの目より敏感になっています。

私たちは傾聴する訓練をしなければなりません。自然が放送局、演奏者であつて、私たちはまさにその聴衆なのです。私たちが体に耳を傾ければ、感性はより鋭敏となり、その必要に注意するようになります。たとえば、指先で耳を閉じるならば、私たちは荒れ狂う海の音のように響く全有機体（体）の音を聞きます。

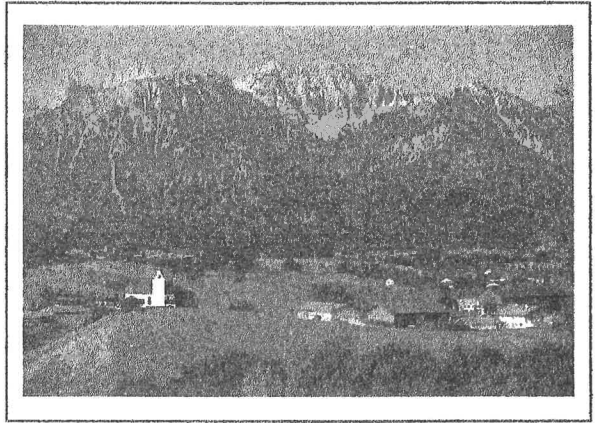
(続)

九里 彰訳

## ヘンリ・ナーウエンの

### 『旅路の糧』

(112)



#### 孤独の庭での声

孤独は、愛を切望する心にとっては庭園です。一人でいることによって実がみのる場所からです。落ち着きのない体と不安な心にとってはふるさとです。孤独は、物理的空間と結びついていようといまいと、私たちの霊的生活にとっては本質的なものです。それは、そう簡単に得られるものではありません。なぜなら私たちは、あまりにも不安や恐れにとらえられているので、直接的満足を約束するものによって、たやすく気を散らされてしまうからです。孤独は、直接的には満足を与えてはくれません。というのは孤独において、私たちは悪霊や依存症、欲望や怒りの感情、他者から評価され、肯定されたいという途方もない必要を見出すからです。けれども、私たちがそこから逃げ出さないなら、こう語られるお方に出会うでしょう。「恐れるな。私はあなたと共にいる。私は闇の谷の中であなたを導いてゆく」と。

私たちの孤独へと絶えずもどきましょう。

(0121)

#### 孤独によって支えられている共同体

孤独は孤独を歓迎するということ、それは、共同体とは何であるかを示しています。共同体とは、私たちがもはや一人ぼっちではない場所ではなく、他者が一人でいることを尊重し、保護し、歓迎する場所なのです。私たちが孤独へと導かれるために一人でいることを許すならば、私たちの孤独は、他者の孤独を喜ぶことを可能にするでしょう。孤独は、私たちを、自分の心の中へと根づかせます。私たちに直接的満足を与えてくれる仲間を求めさせる代わりに、孤独は私たちに自分の中心を求めさせ、他者に彼ら自身の中心を求めさせる力を私たちに与えます。私たちのさまざまな孤独は、共同の家の屋根を支える強くまっすぐな柱のようなものです。こうして、孤独は絶えず共同体を強固なものとするのです。

(0122)



年間 第14主日 (A)

わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

(マタイ 11 : 25 - 30)

マタイは、本日のイエスのことばを謙遜な人は神の民であるという主の言葉で始めています：大工のイエスもその一人です。昔の契約の伝統とも同じですが、このメッセージでは知的追及や達成を責めているではありません。それどころか、知的追及は賞賛すべきもので、現代の教会共同体ではそれをもっと必要としています。イエスが責めているものは、知的傲慢です。イエスは信仰と無知を結びつけているのではなく、信仰と謙遜を結びつけているのです：これは子供の特徴である単純、率直、信頼から成り立っています。イエスのメッセージを受け取るのは理解することによるだけではなく、神の啓示によるのである、とイエスは言われます。この啓示は、いわゆる「賢く、学問のある」人たちにも、もしこの人たちが同時に謙遜で、率直で、信頼する人であれば、与えられないということではありません。

イエスは、次にそれまでのうちで最も偉大な言葉を言われます。それは、鷲のシンボルを持つヨハネの福音書とも思えるほど高尚な言葉です。父のほかに子を知る者はなく、子のほかに父を知る者はない(27節)、とイエスは言われます。父なる神だけがイエスの使命を完全に理解し、イエスだけが神の救いの計画を完全に理解しているという本質は、キリスト教の核心にあります。イエスはこのことを謙遜で、素直で、信頼する人たちに徐々に表されます。当時も今も、イエスのことばを聴こうとしている人たちは、心から神に会おうとしている者、善良であるように努めている者、疲労し絶望に陥り困難に思っている者たちです(28節)。

イエスのメッセージの真髄は、「わたしのもとに来なさい」、即ち個人的関係への呼びかけです。「律法を守りなさい」から「わたしのもとに来なさい」への転換は重要なものです。イエスは私たち皆がイエスの轡を自分の肩に受け入れるように招いておられます。この轡の比喻は大工の店から来ています、大工のイエスは確かにそこで轡を作ったでしょう。神の轡は、私たちの必要や能力にそれぞれぴたり合ったあつらえのものです。愛は全ての荷を軽くします。例えば、ふぶきの中、小さな男の子が更にもっと小さな子を背負って現れる物語のようです。同情した大人が「君が背負っていくには重荷だろう」というと、その男の子は、「ちっとも重くないよ、これは僕の弟だからね」と答えたのです。

(Sr. Paulina)

年間第十五主日 A マタイ 13, 1-9

「耳のある者は聞きなさい」(マタイ 13, 9)。

今日の福音の種まく人のたとえを聞いた日本の農家の人が出たそうです。「日本の百姓は、こんな雑な種まきの仕方はしません。畑を耕し、畝を起し、注意して種をまき、水をやります。一つ、一つの種を大切に扱います。一つも無駄にならないように」。しかし、今日の福音で見逃せない点は、まさに、この種まく人の無頓着さ、どこに落ちるかをあまり気にしないで、どれだけの実を結ぶかをも計算しないで、種が無駄になることさえも気にしないで、寛大に撒き続けるところにあるように思えます。イエスを通して示された御父の寛大な愛、「悪人にも、善人にも、太陽を昇らせる」御父の愛、この愛の無頓着さ、寛大さに気付き、自分を委ねるわたしたちの自由な決断への招きが、今日の福音の主題ではないでしょうか。

イエスは、好んで、世間一般には不毛の土地と見なされるような人々の中に、種を、天の御父の愛の福音を惜しげもなく撒いて行きました。それまでは、天の御父の愛は自分には届いてこないと思いこんでいた人々、罪人、小さい人々、差別された人々に、御父の愛の対象は自分なのだと、イエスは御言葉の種を撒くことで気付かせて行きました。徴税人であったマタイにも、罪の女と言われる無名の婦人にも。自分自身が御父の愛の対象である、この事実を、人間は自分で発見することはできませんでした。イエスが発見させてくださったのです。この発見こそが、素晴らしいものです。ある人が、この発見を、「エピファニー」と呼んでいました。つまり、上からの恵みによってもたらされた「自分自身の神秘」、「自分自身の究極の意味、価値」の現われ、気付きと言うのです。

今日の福音の種まく究極の方は、御独り子を与えるほどにわたしたちを愛して下さる御父だと言えます。「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」(ローマ 5, 8)。無償で撒かれる種は、この独り子を十字架の上の死に渡す愛です。そして、この種は、惜しみなく、すべての生きとし生けるものの中に撒かれているのです。「耳のある者は聞きなさい」。ここから、わたしたちの改心の歩み、百倍の実を結ぶ良い土地に恵みによって変えられる歩みは始まるのです。 ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 16 主 日 (A) (マタイ 13:24-30)

今日の福音の中で語られている“天の国”は主に一つの環境を示します。それは人と人との関わり方であり、神の価値観が行き渡っている状態です。では神の価値観とは何でしょうか。実際には、それは人間の最も深いところにある価値観と熱い思いであって、これは、神のことを知らせるために人の姿をとられたイエスご自身のご生涯に反映されています。この価値観は、真理、愛、憐れみ、正義、全人類との一致のセンス、他人を信頼し、尊敬し、人類全体の成長と発展を願うセンスです。

個人的に、また皆と一緒に、これらの価値観をもってイエスとともに生きようとする人は神の国に属しています。これは基本的に教会の召命ですから、全ての教区共同体と教区のメンバー一人ひとりの召命です。けれども私たちは洗礼を受けている教会メンバーであるというだけの理由で神の国に属しているとはいえません。神の国のビジョンが私たちの日々の生活の効果的な要因となっている限り神の国に属しているといえるのです。

今日の福音を読むと、私たちの間で働いている神の国が三つのたとえで示されています。最初は麦畑の中の雑草のたとえです。神の国は明らかに最高の理想を持った特別に寛大な人を呼び求めています。また同時に、神の国の実現を考えると、多大な我慢強さ、辛抱強さ、理解力のある人を呼び求めています。このたとえは、神とイエスのビジョンと価値観で満たされている人は、あらゆる人々—未だ神の国のビジョンや価値観を分かち合えていない人々—とともに生きていくことを学ばなければならないと言っています。

次に続く二つのたとえは神の国の他の二つの性格を指しています。からし種のたとえは、キリストによって生まれたばかりの教会であろうと、今日聖霊によって新たに始められた運動であろうと、神の国の働きはとても小さなものから始まることを示しています。神の国のビジョンが真にしっかりと根を下ろしているなら、どこであろうと、そこには確かな当然の成長がある筈です。

その始まりいかに小さなものであっても、私たちが神の国の精神とその価値観に忠実に生きるなら、目に見える難しい障害や脅迫、そして危険さえも克服できると確信します。神の国の共同体は、それがどんなに小さなものであっても、人々に認められた価値観として神の国の価値観を広めていく環境を發展させていく上で、真の影響を与えることができるのです。

(Sr. Paulina)

「喜びながら、・・・持ち物をすっかり売り払って、それを買う」  
(マタイ 13, 44)。

「マタイによる福音」第十三章は、神の国のたとえをまとめています。また他方で、イエスの言葉を物理的に耳にする無名の群衆の一人から、イエスの言葉に信じ従う弟子へと変えられて行く過程をも描いています。聞いても悟らない群衆、不特定多数の中の無名な人から、天の国の秘密を知りうる弟子、イエスから「あなた」と呼ばれ、交わりに招かれる者に変えられて行く歩みです。この真実な歩みの途上にいることを特徴付けるしるしは、今日の福音の言葉によれば、「喜びながら、・・・持ち物をすっかり売り払って、それを買う」。喜びながら、それまで自分が抛りどころとしていたものをすべて、放棄してしまう。この何の未練もない、思い切りの良さでしょう。

わたしの知っていた一人のヘビー・スモッカーであった宣教師が、脳梗塞で倒れたときのことで。それまで、医師も、何度も禁煙を忠告してきたのですが、喫煙は、罪ではない、健全な息抜き、むしろ、心の苛立ちを癒し、もっとよりよく神のために働けるための気晴らしだ、確かに、タバコは、健康にある害があることは承知している、しかし、多くの効用もある、捨ててしまわなければならないものではないと、言い張っていたのですが。いずれにせよ、この時から誰がなんと言っても止めなかった喫煙をきっぱりと止めたのです。健康を心配して、あるいは、死ぬことが怖くてでしたでしょうか。最初、わたしも、このように下司な想像をしていました。しかし、わたしも気付いたのです。それだけではない、いや、それを通り抜けて、「イエスを伝える者として再起したい」、この願いがあったのです。イエスの福音をまだイエスを知らない人たちに伝えること、すべての人にイエスを愛させること、この願いが。

確かに、小神学校に入るために、両親から離れ、家を出たときにも、司祭職を受け、宣教師として遠い未知の国に出発したときにも、今日の福音は、心に響いていたでしょう。しかし、わたしは思うのですが、「天の国」のためにすべてを捨てたのは、「タバコを止める決断」をした時、生涯の終わりのこの時ではなかったのかと。このときから、持ち物をすっかり売り払って天の国を買い取った人の喜び、天の国の前味を味わっていたと思うのです。

ルカ 渡辺幹夫

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話(16)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### うずら

先月の話(お米)と幾分似通った、他の親しみやすい出来事が、1586年の10月に創立されたマンチャ・レアル(ラ・マンチュエラ)の修道院で起こりました。

聖人はその時、「かなり弱っており、体力をつけるため肉を食べる必要がありました。村人の一人がそれを知り、一羽のうずらを持ってやってきました。そこに病人係の聖ヒラリオのフランシスコ修道士がいました。彼は聖人をとても愛していたので、自分でできる限りの、知っている限りの最上の料理を準備しました。

ところが、食事の時間の少し前に、一匹の猫がうずらのおいをかぎつけ、その一部を食べてしまいました。修道士は、それを知ると、とても嘆き悲しみました。そして困り果てている時に、聖なる神父がやってきて、なぜそんなに悲嘆に暮れているのかとたずねました。

理由を知ると、そんなに小さなことでおろおろしないように言い、彼を慰めてその場を立ち去りました」。

ホルへとフランシスコ、お米とうずらの二人の料理係は、ヨハネ修道士の温和さと平静さをほめたたえています。二三年前に聖人が書いたことは、無駄ではありませんでした。

それとは反対のことがらによって生ずる苦しみや悩みは、それらを静めるために、何の役にも立たない。…心を乱すことは、何の益にもならないゆえに、いつも空しいことは明らかだからである。したがって、すべてが失敗に終わり、破壊され、反対の結果になるとしても、心を乱すことは空しいことで、それはいやすよりも、むしろ害を与えるものだからである。いつも静かな落ち着きをもって、すべてを耐え忍ぶことは、多くの善を得るために役立つだけでなく、同じ逆境にあっても、それらについてよりよい判断を下し、適切な救いの手をさしのべるものである。(3S6, 3)

十字架の聖ヨハネのこれらの幅広い、キリスト教的禁欲主義の香りを漂わせる指示は、鍋が割れ、お米を無駄にしてしまったために、またうずらが猫にかじられてしまったために、悲しみおろおろしていた料理係たちに役立ちました。些細なことで人が意気消沈しないように、事実、十字架のヨハネ修道士は、意気消沈しませんでした。

(続く)

## …ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 19. 幼いイエスの聖テレーズ (1873-1897) — その7

テレーズ・マルタンは、フランスのアランソンで、大変愛情深く敬虔な家庭に生まれた。4人の姉のうち3人は、リジュー・カルメル会における修道生活においても姉妹となった。

1888年、15才でカルメル会に入会。正式な修道名は「幼いイエスと尊き面影のテレーズ」であった。テレーズは聖人になりたいと望んでいた。他の聖人たちのように偉大なことはできないと知っていたが、それでも預言者、司祭、宣教師、使徒になって五大陸を駆けめぐりたかったのである。ある日、彼女は自分の使命が教会の心臓の中で愛となることであることに気がつく。彼女が見出した霊的幼子の小さな道には、何でもないような小さなことをイエスに捧げることが含まれていた。彼女は自分自身の弱さそのものをイエスに捧げ、他人に気付かれることも評価されることもない小さな事柄を行う機会を探し、静かに謙遜に奉仕した。テレーズは「神のいつくしみの愛」に身を捧げた。自分が神のあわれみに頼らなければならないこと、神のあわれみは神の正義に勝るものであることを信じていたのである。彼女は神の腕の中にいる子どものように、完全に自分を神に委ねきっていた。結核が重くなってからも、長上への従順によって、自叙伝を書き記した。最も深い信仰の暗夜を体験しながらも、喜びをもって苦しみを受け、1897年に帰天。1925年列聖。1927年、聖フランシスコ・ザビエルと並ぶ宣教の保護者に上げられ、1997年、教会博士の称号を受けた。



幼いイエスの聖テレーズ

—— 祈り ——

おお私の神！ いけにえとして自分をほふるうとする靈魂を見出すのは、あなたの正義だけでしょうか。あなたのいつくしみ深い愛もこのような靈魂たちを必要とするのではないのでしょうか。どこを見ても、この愛は知られることなく、受け入れられることもありません。あなたはこの愛を人々の心にあふれるほど豊かに注ごうとしておられるのに、人々は、あなたのみ腕の中に飛び込んで無限の愛を受けようとはせず、被造物に向かい、そこに幸福とみじめな愛情を探し求めます。おお私の神！ さげすまれたあなたの愛は、あなたのみ心のうちに閉じ込められたままになるのでしょうか。もしあなたの愛に全焼のいけにえとして身を捧げる靈魂があれば、あなたは速やかに彼らを焼き尽くされることでしょうか。そして、無限の優しさの波をご自分のうちに押しとどめておかずにすむことを喜ばれることでしょうか。あなたの正義、この地上にのみ広がる正義が喜んで広がっていくならば、まして、あなたのいつくしみ深い愛は、どれほど靈魂たちを燃え立たせたいと望んでいることでしょうか。あなたのいつくしみは天にまで届くのですから。おお、私のイエスさま、私をこの幸福ないけにえとしてください。そしてこの全焼のいけにえをあなたの神的な愛の火で焼き尽くしてください！ (『自叙伝』原稿Aより)

私は悟りました。教会には一つの心臓があり、この心臓は愛で燃えているということ。教会の肢体を動かしているのは愛だけであり、もし愛が消えてしまうならば、使徒たちはもはや福音を告げようとはせず、殉教者たちは血を流そうとしないだろうと、悟りました。私は悟ったのです。愛はすべての召命を含み、愛はすべてであり、すべての時代と場所を包含する……、一言で言えば、愛は永遠である、と！

そこで、私は、我を忘れるほどの喜びに圧倒されて、叫びました。おおイエスさま、私の愛よ……、ついに私は自分の召命を見出しました……。私の召命、それは愛です！

そうです、私は教会のうちに自分の場所を見出しました。おお私の神、この場所を私に与えてくださったのは、あなたです。母である教会の心の中で、私は愛となりましょう。こうして私はすべてとなり、私の夢は実現されるでしょう。

おお光り輝く灯台よ、私は、どうすればあなたに行きつくことができるかを知っています。私はあなたの愛の炎を所有する秘訣を見出したのです。

私は無力で弱い子どもに過ぎません。けれども、あなたの愛のいけにえとして自分をお捧げする大胆さを私に与えるのは、私のこの弱さそのものなのです。

この子どもが求めるもの、それは愛です。彼女はただ一つのことしか知りません、それは、おおイエスさま、あなたを愛すること。(『自叙伝』原稿Bより)

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(奉天カルメル会訳・編)

## スペイン紀行（2008年）最終回

（アヴィラ）

スペインの首都、マドリッドから車で1時間半走ったところに、アヴィラという町があります。ここの城壁がユネスコ世界遺産に指定されていて有名ですが、この町から、アヴィラの聖テレジアの活動が始まりました。

テレジアは、この町の近くの村で生まれ（1515年3月28日）、このアヴィラの小教区で洗礼を受けました。その後、このアヴィラの町に住み続けますが、1535年（テレジア20歳）に彼女は、この城壁の外にあるカルメル会のエンカルナシオン修道院に入会することになります。この修道院は現在も存続していて、テレジアの精神を受け継いだ跣足カルメル修道女が祈りを捧げています。

テレジアは、長い祈りの生活の後に、キリストの神秘体験を受け、この神秘生活に入っていく中で、カルメル会の改革をこのアヴィラから始めました。その最初の修道院が、やはりアヴィラの城壁の外に建っていますが、丘の上にサン・ホセ修道院を創立します（1562年8月24日）。しかし、その創立は容易なものではありませんでした。カルメル会の内部の反対や、アヴィラの町の反対、そして、親しい聖職者の疑いなど、たくさんの困難をこの時点から受けました。しかし、多くの恩人の助けを借りて、この修道院の創立を行います。特に際立っている聖人は、フランシスコ会の聖ペトロ・デ・アルカンタラ、イエズス会の聖フランシスコ・デ・ボルハであり、彼女が『自叙伝』の中に名前を挙げるくらいの恩人です。また、ドミニコ会の神学者方や、イエズス会の他の神父方、そして、何よりも教皇庁の理解とアヴィラの司教、アルバロ・デ・メンドーサにより、この修道院が創立されました。

この修道院は、テレジアによれば、神の業であり、特に三つの点を強調しています。祈りと清貧と共同体です。祈りはテレジア的修道生活の基礎中の基礎であり、教会の中で、祈りの使徒的活動を担っています。清貧は、簡素な生活と単純さの中で、キリストとの一致に集中します。共同生活は、創立当初、12人と1人の院長の小さな共同体を形成し、キリストの下に呼び集められた使徒たちの学校をイメージしています。そのため、この共同体は、キリストを中心とした祈りの



（エンカルナシオン修道院）



共同体なのです。常に、共同体的次元の中で、世の中にキリストを現存させる共同体でもあります。そのため、彼女が話したとおり、神の業である共同体でもあります。

この精神は、ローマのカルメル会総長ルベオ神父が認めるところとなり、改革男子カルメル修道院の創立、改革女子カルメル修道院の創立が相次いで行われることとなります。テレジアの死後（1582年10月4日）、彼女の追従者である、イエスのアンナやバルトロメのアンナ、そして数名の修道女たちは、フランスの創立、ベルギーの創立に出かけ、また、イタリアにも跣足カルメル修道院が創立し始め、世界に広がることとなります。

現在、このアヴィラには、エンカルナシオン修道院、サン・ホセ修道院、そしてテレジアの家族の家があったところにはテレジア修道院があり、多くの巡礼者が訪れています。マドリッドからも近いので、もし、あなたがスペインに行く機会があるときには、このアヴィラへの巡礼をお勧めします。しかし、一つだけ注意するならば、このアヴィラは標高1000メートル以上のところにありますので、夏以外は寒さに注意していらしてください。

これで、わたしのスペイン紀行を終了しますが、深くアヴィラの聖テレジアを知りたい方は、彼女の本がキリスト教書店から出版されていますし、または、カルメル修道院でも神父様方がアヴィラの聖テレジアのこと、そして、十字架の聖ヨハネのことを教えてくれますので、伺ってみてください。

では、¡アディオス、アスタ・オートラ！

(Fr. 松田浩一 OCD)



(アヴィラの広場に立っているテレジア像)

## 神様からのプレゼント

久が原修道院の中庭はさ程の広さではないのですが、今、中央に近くしだれ桜が、沢山の細かい小枝を伸ばし、まさに“今こそ出番”と言わんばかりに咲き匂っています。その枝々は美しい曲線を描きながら、まるで地面を蔽うように細かい手を差し伸べています。(数年前までは“つつじ”がこんもりと、まるで深紅のこうもり傘を開いたように咲き匂っていたのですが。) その隣は“棕櫚の葉”、“それこそ、天まで届け、僕達はこの庭の中で一番力が強いんだからね。”と言わんばかりに、ものすごい気迫で大きな葉を精一杯拵げています。見るからにパワーを感じさせます。思えば“枝の主日”のあの日は“出番”で、大いに役立ってくれました。あのときのパワーは今も依然として保ち続けています。ただ、季節でないので、人間側からのあの時程のニードはなくなってしまいましたが…つまり季節的人気落ちとでも言うのでしょうか。池の周りに生えている“水仙”達は、「私達の出番はもう終えてしまったんだよ。あの時はまだ早春で、他の花が少なかったから、お役に立って嬉しかったもんだ。“花屋の花瓶”の中に入っている、大勢のお客さんがすぐ見つけて買ってくれたからね。……あの時程、自分の存在感を感じたことはなかったね。」水仙たちは、つい先だっの過去を振り返りながら、それぞれの場所で過ぎた日々を追憶していました。その両隣には、大きな棕櫚の葉を沢山の小さな手で支えるように、薄紫色の可憐なナンフォアが(中国の大根花)、沢山咲き匂っています。「私は生活に難しい条件など何もないの。種子がこぼれ落ちる、どこでも芽が出て伸びるので、人々から観賞用、また食用として喜ばれているんです。」人に知られなくても、特別に重宝されなくても、伸び伸びとして、自分を取り囲む世界を謳歌出来るナンフォアさん！あなたは何と素晴らしいのでしょうか。自分が神さまから頂いたすべてのものを感謝して受け入れられるなんて！！

たった少しの植物について見ただけでも、その一つ一つに特徴があり、他の種類と同種類にまとめることは出来ません。イソップ物語ではないけれど、他人ばかりがよく見え、羨ましがっていたとしたら、(この感覚を自覚してキャッチすることは、一つの悟り と思うのですが) 自分の感覚は晴ではなく、常に曇りになってしまいます。植物には、知性と自分についての“自覚”というものがなく、自然におまかせだけなのですが。でも私たち人間はそれだけだったら大変困ります。“自分の存在価値”、つまり神さまが、私を私らしく創って下さったものは何か(例えば性格的に、またタレント的に)それを客観的に見つめることが出来、一人でほくそ笑んだり、宝の持ち腐れに終わるのではなく、人々のお役に立つように使ったら、それこそ神が創造の始めに種々のものを創り終えられて「よしとされた」というお言葉の実現になるのではないのでしょうか。 お告げのフランシスコ姉妹会 Sr.熊田 照子



不遜さの打ち砕かれき人間とはかくも小さき者  
にありしか

大寒の朝たつかげろふ不気味なる静装ひをり大  
地の貌は

まろびてはまろびてはまた朝の露姿ととのへり  
地球のさまに

故・クララ 密本 延枝 さまの歌集「オルゴール」より



何気なく雑誌に目を通していた時のこと、「たったひとつの言葉を見つけるために何ヶ月も呻吟した」という或る作家の言葉に目が留まり、何故か不意打ちを食らう感じで心を揺さぶられました。

何ヶ月もの間、苦しみつつたったひと言を見出そうとする営み、創作は、10年、20年と構想を練り、正に命を削って産み出すものもあります。そうやって探し出され、見出され、産み出された言葉は、必ずや全世界、全宇宙に匹敵するものであるはずだと、或る種羨望を覚えます。

私は突然の動揺を抱えたまま脈絡もなく、とりとめもなく、訥々と考えてみました。

今月のこの文章は、まとまりのない茫洋たる問いです。

日頃、何の不思議も感じずに毎日使っている言葉、この世の生きものの中で人間だけが作り出し使うこととなった言葉、人類の歴史600万年、言葉の歴史7万5000年と云われていますが、考えれば考えるほどに深遠で複雑な言葉の世界に驚きます。

必要に即してであったにせよその膨大な量といい、種類といい、使用法といい、お手上げとしかいいようがありません。つい最近のこと、アマゾン地方で、これまでまったく見知らなかった新しい先住民族が発見されたというニュースが流れましたが、飛行機に向って矢を射ようとしている裸のあの人々は、一体どのような言葉を持ち、どのように使っているのでしょうか。興味津々ではあります。

わが身をふり返れば、日本人としての日本語だけでも十分使えますとは到底いえるものではありません。

しかし、不思議なことに、それにもかかわらず私たちは言葉が足りないと感じていて言葉の限界を知っていて、言葉では言い表せないと嘆きます。おそらく誰もが人生にあって、一度ならず筆舌に尽くしがたいと嘆いたことがあるのです。

今、或ることに気がつきます。

父と子と聖霊・・子は言（ことば）、みことばと称せられます。何ゆえに言葉を超える最たるものを言（ことば）と称したのでしょうか。言（ことば）みことばという言葉が意味するものは何なののでしょうか。

更には、『霊もまた言葉にならないうめきをもって、弱いわたしたちを助けてくださる』と私たちはきくのです。

或ることに気がつきます。

禅宗では、最たるところは結局はとどのつまりは、以心伝心、不立文字、教外別伝などと云います。言葉ではだめだというのです。

私たちは、自らの内部の底の底には、言葉はおろか何がどれだけ発達しようとも何ものも届き得ない深い淵を有し、しかし、そこに住まわれるお方が言（ことば）、みことばであるという眩暈のするような神秘を抱えています。主よ 何ゆえにあなたは言（ことば）、みことばと称せられるのでしょうか。

実は、私は言葉による道の理、筋道を敢えて壊すもの、禅問答といわれるものや逆説といわれるものが好きです。心が落ち着き安心するのです。自分の人生にあっても、ほんとうに心に留まることは、筋道の通らない逆説ともいえるところで身に刻み生きてきたように思っています。 例えませんが、死ということ「ほんとうに」知ったのは結婚した時でした。必ずや死が二人を分かつことを結婚したことで魂の底の底から思い知って、どうすることもできないことも思い知って、新婚旅行の間中泣きました。

極まり尽くしたものは、向こう側へと突き抜けるというのでしょうか。

同じように、初めての子どもが生まれた時も、嗚呼この子も必ず死ぬのだという当り前のことに抗しきれずに、誕生したばかりの新生児を胸に抱いて幾度も涙を流しました。

そしてまた、一心不乱に求め求め求めた果てのキリストとの出会いという頂点さえも、これまた完膚なきまでのどん底、自らの闇の深さととの出会いに他ならなかったのです。

去る5月「キリストの聖体」の日に最愛の弟が他界いたしました。かの国へと旅立つ枕辺で、私は唯一暗誦できる詩篇130を唱えていました。『主よ わたしは深い淵からあなたに呼ばれる —— 』唇に昇ってくるそれは、言葉でありながら決して言葉ではありませんでした。

今月のこの文章は、まとまりのない茫洋たる問いです。

# わが家の信仰

今川 真太郎

旧制高校が廃止になり、私の父は他の学校に変るかの選択を迫られることになりました。父は米国に留学させてもらう条件で南山大学に移ることとなり、学校の官舎を出なくてはなりませんので、また家捜しをしなくてはなりませんでした。

A神父は事の次第を、主任神父に空いて居る二部屋を貸して上げることは出来ないかと手紙をドイツに書きました。するとドイツから返事が来て、広間を学生寮にして、毎日学生の監督をし、朝、夕礼拝に出ることを条件に許して下さいました。

朝、夕お祈りの祈祷書を読んだりオルガンを弾いたりしました。だんだんと近所の人も増えてきて聖堂一杯になりました。主任神父がドイツから帰ってこられましたが、A神父は忙しくて体調をくづしてしまい療養のため帰国されました。

そこで、主任神父は、母に高等学校以上の生徒の聖書の勉強や、次週主日の説教等の準備を奉仕できるようにされました。

私は病気で寝ながら母から四旬節には「何か一つ犠牲を払わなくてはいけない」と聞き、自分の好きなお菓子を食べないことを犠牲にしました。母がお客さまにお菓子をだして真ちゃんも食べなさいと言ったときでも食べませんでした。

私の病気がなかなか治らないので知多半島の病院に入院し寝ながら自分の好きな聖書の所を暗記しました。やがて父も帰国し新しい官舎に移り住むようになり、私も退院できました。父は、南山教会の新しい神父に教会の委員長になってくれと頼まれて忙しくなりましたが、が、そんなときでも管区長の指導する黙想会がある所の多治見修道院やピオ館に行きました。私は勉強が病院に入院していたため少し遅れて家庭教師の学生さんに見てもらいまして、その人と毎朝自転車で南山教会に礼拝行き新しい主任司祭とも親しくなりました。主任司祭は、母にレジオマリアとロザリオ会の司会をまかせられました。そのうち司祭は東京に転任となり、代わりの司祭が来ました、私は続けてミサ奉仕をして、その神父様とも仲良くなりました。

父は、役員をやめたがっていましたが、なかなかやめさせてもらえませんでした。母はロザリオ会を持ち回りで一軒一軒神父さんをお祈りの会をしました。私は高等学校になり近くの修道院からセレモニーの時ミサ奉仕や、早朝礼拝に行き手伝いました。

やがて高等学校を卒業し東京の美術学校に入学しました。母と私は南山教会の前の

主任司祭を頼り教会に行き、そこの賄いさんの家に下宿させてもらえることになり、毎朝礼拝や儀式等などの手伝いをし、休日にはカトリック図書館で本を借りて読んでいました。その中にカルメル会の本があり難しいことばかりが書いてあるので、そこの主任司祭に相談しましたら助任司祭を紹介され、話しているうちにカルメル会修道院に行ってみたくなり、その神父様に紹介状を書いてもらいました。それを持って修道院に行きました、ちょうど聖務日課の礼拝が終わったところで院長様が紹介状をみて「中にお入りなさい」と言って二人の修道士の立ち会いでスカプラリオの儀式が始まりました。終わりにこの火を消さないでくださいと言って長い長いお祈りをしてくださいました。

終わり



# いのちの言葉 6月

神の掟を守る人は、神の内にもいつもとどまり、  
神もその人の内にとどまってくださいます。

(一ヨハネ 3・24)

人は誰かを愛する時、いつもその相手と共にいたいと思うものです。これは、愛でおられる神のお望みでもあります。神はご自分と出会うことができるよう、私たちをお造りになったので、私たちは、神との深い一致に至るまでは、満ち満ちた喜びを得ることがないでしょう。神は、私たちの心を満たすことのできる唯一の御方です。神は、私たちと共にいてくださり、私たちをご自分との交わりに招き入れてくださるため、地上に来られました。

ヨハネは手紙の中で、最後の晩餐で示されたイエスの最も深い望みを思い起こしながら、神が私たちの内に「とどまり」、私たちが神の内に「とどまる」ことについて語っています。イエスは「私につながっていなさい」と言われ、ぶどうの木とその枝にたとえて、ご自分と私たちとのつながりが、どれほど命あふれる強いもの<sup>1</sup>であるかを説明されました。

しかし、神との一致に至るには、どうすればいいのでしょうか。

ヨハネは、神の掟を守れば十分であると、はっきり語っています。

神の掟を守る人は、神の内にもいつもとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。

神との一致に至るには、多くの掟を守る必要があるのでしょうか。

そうではありません。イエスはご自分の教えのすべてを、唯一の掟に集約されたからです。「その掟とは、神の子イエス・キリストの名を信じ、この方がわたしたちに命じられたように、互いに愛し合うことです」<sup>2</sup>と、今月のみ言葉の引用箇所の直前で、ヨハネは語っています。

イエスを信じ、イエスが私たちを愛されたように私たちも互いに愛し合うこと、これが唯一の掟です。

私たちの間に神がおられる時に、一人ひとりが自己実現するとすれば、人が「本当の自分」でいるための唯一の方法は、愛することです。これを強く確信していたヨハネは、手紙の各所で「愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまる」<sup>3</sup>、「わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまって」<sup>4</sup>くださる、とくり返し語っています。

これに関して、教会の伝統によれば、次のような話が残っています。ヨハネが年老いた時、人々から主の教えについて尋ねられるたびに、相互愛の「新しい掟」の言葉だけを繰り返していたそうです。「なぜ他のことを話さないのか」と問われると、ヨハネは「これこそが、主の掟だからです！これを実践すれば十分です」と答えた、と言われます。

このことは、どんな「いのちの言葉」についても言えることでしょう。聖書の

<sup>2</sup> 一ヨハネ 3・23

<sup>3</sup> 同 4・16

<sup>4</sup> 同 4・12

<sup>1</sup> ヨハネ 15・1-5 参照



言葉はすべて、愛するようにと私たちを導きます。神は愛でおられ、み言葉一つひとつが、内に愛を含み、愛を表現するものだからです。私たちがみ言葉を実践すると、み言葉はすべてを愛に変えます。

**神の掟を守る人は、神の内にもいつもとどまり、神もその人の内にとどまってくたさいます。**

今月のみ言葉は、私たちがイエスを信じ、自分のすべてを尽くして、イエスの教えに應えるよう、招いています。ヨハネが手紙の中で教えているように、イエスは神の愛を表現する方であり、愛ゆえに私たちのため命を捧げてくださった<sup>5</sup>ことを信じましょう。イエスを遠く感じる時、彼の存在が感じられない時、困難や苦しみに出遭う時にも、同じように信じるのが大切です。

この信仰に強められて、私たちはイエスの模範にならって生きることができるでしょう。イエスの掟に従い、彼が私たちを愛してくださったように、私たちも互いに愛し合うことができるでしょう。

相手のことが嫌になる時、「いくら愛しても無駄だ、愛は帰ってこない」と感じる時にも、愛することです。それによって、私たちの人間関係には、再び命が吹き込まれ、いっそう誠実な深い関係になっていくでしょう。このような一致がある時、神は私たちの間にとどまってくたさいます。

**神の掟を守る人は、神の内にもいつもとどまり、神もその人の内にとどまってくたさいます。**

ある方の経験をご紹介します。

「私と主人は、愛し合って結婚し、最初の数年はとても良い関係でした。でも最近、主人はとても疲れてストレスがた

まっていました。

ある晩、彼が仕事から戻り、食卓につきました。私が隣に座ろうとすると、嫌がり、働いていない私には食事をする権利はない、と怒鳴りました。私は一晩中泣きあかし、『家を出よう。別れよう』という思いが、何度も胸をよぎりました。翌日も、いろいろな考えに悩まされ、『自分は結婚相手を間違えた。あの人とはもう一緒に生活していけない』と思いました。

その日の午後、私は、信仰生活の仲間である、クリスチャンの友人たちと話すことができました。彼女たちは心から愛をもって私の話を聞いてくれ、私の内には、前進する力と勇気が再び湧いてきました。こうしてその日の晩も、主人のために夕食を準備することができましたが、彼の帰宅時間が近づくにつれ、『今日はどんな態度を取るだろう』と思うと、だんだんこわくなってきました。その時、心の中で、『この苦しみを受け止めて。あきらめないうで、愛し続けて』という声が聞こえました。

主人が帰ってきました。私のために買ってきたケーキを手に、彼は『昨日は、申し訳なかった』と言いました。」

キアラ・ルービック

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

<sup>5</sup> 同 3・16 参照



「全能のキリスト」

ヴィクトール ミシャーロ

# カルメル会の企画案内



# 内案画金の会々々々



上野毛靈性センター '08年6月～'09年3月黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

## 1. 一泊聖書深読(毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

7月26日～27日	大瀬高司 神父
11月29日～30日	//
09/ 1月24日～25日	//

## 2. 奉獻生活者のための黙想会

A	8月 5日(火) 夕食～ 8月14日(木) 朝	九里 彰神父
B	8月18日(月) 夕食～ 8月27日(水) 朝	渡辺幹夫神父
C	11月 8日(土) 夕食～11月17日(月) 朝	松田浩一神父
D	12月26日(金) 夕食～09/1月4日(日) 朝	中川博道神父

## 3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日 10時～16時)

9月 4日	今泉 健神父
11月 6日	松田浩一神父
09/ 1月 8日	松田浩一神父
3月12日	中川博道神父

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日 10時～16時)

10月10日	松田浩一神父
12月12日	松田浩一神父
09/ 2月13日	ベルナルド神父

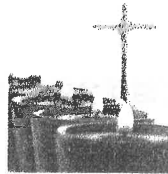
## 5. 一般黙想会(毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

10月 4日～ 5日	松田浩一神父
09/ 2月 7日～ 8日	中川博道神父

## 6. 青年黙想会(男女) カルメル会士 神学生

10月25日(土)～26日(日) 15時受付

7. 召命黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生  
6月28日(土)～29日(日)・・・15時受付  
11月22日(土)20時～24日(月)・・・(22日は夕食を済ませてご参加ください)
8. 祭日のミサに与かるために  
【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時  
12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》
9. 特別黙想会 “私は神をみたい” シリーズ 伊従信子NDV  
5月16日(金)20時～18日(日)16時(16日は夕食を済ませてご参加ください)  
「私は神をみたい」・・・マリア  
10月11日(土)20時～13日(月)16時(11日は夕食を済ませてご参加ください)  
「私は神をみたい」・・・イエスの湯き
10. 待降節黙想会 中川博道神父  
12月5日(金)20時～7日(日)16時(5日は夕食を済ませてご参加ください)
11. 四旬節黙想会 松田浩一神父  
09/ 3月6日(金)20時～8日(日)16時(6日は夕食を済ませてご参加ください)



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの  
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

# 聖書深読黙想会

## 〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
 指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
 聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交  
 わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、  
 福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

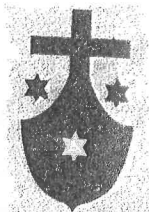
- \* 日時：2008年7月26日（土）18時～27日（日）16時
- \* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家
- \* 指導：大瀬高司師（カルメル会司祭）
- \* 会費：¥7000
- \* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一朗著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

'08年7月～12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

\*\*宇治聖テレジア修道院(黙想)\*\*

1. 聖書深読

一泊二日(午後5時～午後4時)

7月 5日(土)～6日(日) 新井延和神父

9月20日(土)～21日(日) 渡辺幹夫神父

11月 8日(土)～9日(日) 中川博道神父

1日(午前10時から午後4時)

10月 4日(土) 九里 彰神父

12月13日(土) 新井延和神父

2. 水曜黙想(午前10時～午後4時)

7月23日 カルメルの祈り 新井延和神父

9月10日 神との親しさ 中川博道神父

10月 8日 アヴィラの聖テレジア sr.パウリーナ

11月19日 三位一体のエリザベット ベルナルド神父

12月17日 十字架の聖ヨハネ 渡辺幹夫神父

3. 待降節黙想(午後5時～午後4時)

12月6日(土)～7日(日) 新井延和神父

4. 聖テレーズの黙想(午後5時～午後4時)

9月30日(火)～10月1日(水) 伊従信子(NDV)

5. 奉獻生活者のための黙想(午後5時～午前9時)

8月 2日(土)～11日(月) 渡辺幹夫神父

8月18日(月)～27日(水) 中川博道神父

10月18日(土)～27日(月) 渡辺幹夫神父

12月27日(土)～1月5日(月) 新井延和神父

6. 青年のための黙想会・男女(午前10時～午後5時)

11月2日(日) カルメル宣教修道女会、渡辺幹夫神父



その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457



# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～(2008)

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:20)とされました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「祈りを生きる～主よ、私たちに祈ることを教えてください～」としました。

このテーマを通して、魂の呼吸であるといわれる祈りを、日々の神様との出会いの中で、主のみ前に自分をおき、静かに主のみ声に耳を傾け、主と語り、主を生きる喜び、恵み、愛を思い巡らしながら、神様と交わりをより深めていく事ができるたらと願っています。

第1回	1月14日(月)*祝	日常の祈りの心、形、方法	中川博道神父(カルメル会本部)
第2回	2月16日(土)	イエスは祈られた	ベルナルド神父(宇治修道院)
第3回	3月15日(土)	苦しみの時の祈り	新井延和神父(宇治修道院)
第4回	4月12日(土)	賛美と感謝の祈り～ミサ～	今泉健神父(上野毛修道院)
第5回	5月24日(土)	ロザリオの祈り	渡辺幹夫神父(宇治修道院)
第6回	6月14日(土)	主の祈り	新井延和神父(宇治修道院)
第7回	7月21日(月)*祝	聖エリアの祈り	中川博道神父(カルメル会本部)
第8回	9月27日(土)	幼いイエスの聖テレジアと祈り	未定
第9回	10月13日(月)*祝	アヴィラの聖テレジアと祈り	Srパウリーナ(宣教カルメル修道女会)
第10回	11月22日(土)	十字架の聖ヨハネと祈り	九里彰神父(上野毛修道院)

了  
了  
了  
了  
了  
了

\* 時間 AM10:00～PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接  
\* 駐車場は利用できません。

\* 費用 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約20名

\* プログラム  
10:00～ 祈り  
10:40～ 講話【1】  
12:00～12:45 昼食  
12:50～ 赦しの秘跡または短い面接  
13:30～ 講話【2】  
14:45～ ミサ  
15:30～ 茶話会  
16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へVカキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

### 聖書深読会ご案内 2008年度

日曜日の福音を、読み、味わい、分かち合い、解読で学んで  
福音を心に刻みます。どなたでも、自由にご参加ください。

1. ~~5月31日（土）~~ ~~島 基幸神父~~ 終了
2. 7月19日（土） 新井延和神父
3. 9月13日（土） 新井延和神父

場所：唐崎黙想の家（ノートルダム教育修道女会）

費用：1,500円（昼食代含む）

時間：午前10:00～午後4:00

住所：〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

TEL 077-579-7560

交通：JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車

琵琶湖の方へ徒歩 約13分

申し込み・問い合わせ：TEL 075-724-0771

FAX 075-724-0772 Sr.福島まで

各回、お申し込みは前日までに

電話、ファックス、または葉書にてお願いします。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

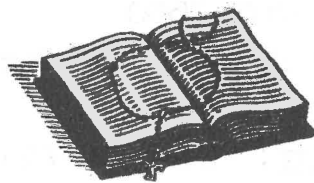
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



#### 聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

## カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」NO.329 (2008年夏号)「今日の靈性」

聖靈の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (10) …高橋正行

愛は愛を呼ぶ …中川博道

十字架のヨハネ講話 (11) …フェデリコ・ルイス

愛で生きる (9) …ペトロ・アロイジオ

エリザベットの「魂のこだま」、ギット (6) —夫亡き後のギット …伊従信子

エディット・シュタイン「カルメル会への道程

—ケルン・カルメル会に入ったいきさつ」(1) …須沢かおり

「小さい道」の巡礼者 (1)

テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (21) —希望の翼 …伊従信子

神の愛・人の愛 —共生・共依存など …谷口正子

愛の断章 (8) …奥村一郎

雑誌「カルメル」特集号 特集：「パウロとカルメルの靈性—聖パウロ年を迎えて—」

パウロ—キリストに捕らえられた使徒

「キリストがわたしの内に生きておられる」 …澤田豊成

カルメルとパウロ —史的歩みの中で …大瀬高司

幼きイエスのテレーズとパウロ …伊従信子

イエスのテレジアとパウロ …渡辺幹夫

十字架のヨハネとパウロ …九里彰

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号+特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

（お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356）

## 待望の再販

『自叙伝』（サンパウロ社）、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』（ドン・ボスコ社）

## カルメル山の聖母の祭日と祝会のお知らせ

7月16日（水）10時 カルメル山の聖母の祭日ミサ

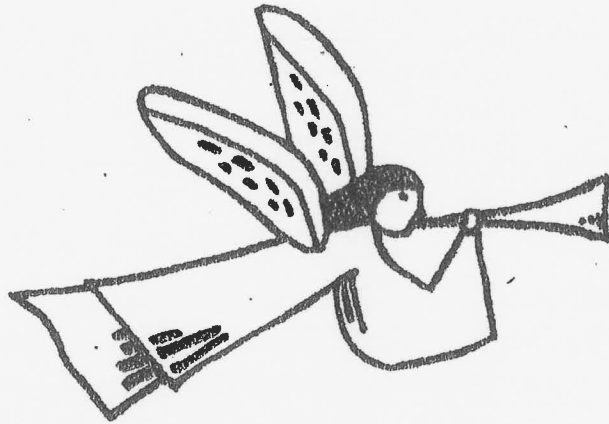


7月20日（日）10時半 カルメル山の聖母を祝うミサ

ミサ終了後 お祝いパーティー  
（信徒会館1階ホール）

スカプラリオ授与式 : 9時45分・12時30分

# 諸所の企画案内



心のいほり

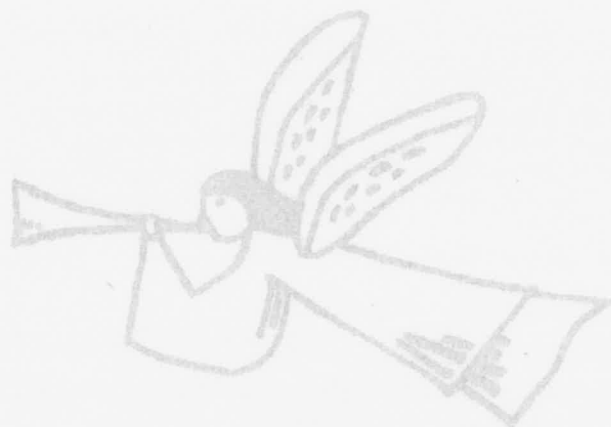
真命山靈性交流センター

リーゼンフーバーキリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

# 内案画全の西蕃



© 1971 by the author

— 西蕃交遊山命真 —

西蕃交遊山命真

— 西蕃交遊山命真 —

西蕃交遊山命真



# 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターにお問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観黙想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

## ★2008年度★

了	P1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	Y1	08・02・10 (日)	2時から	02・16 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
了	P2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	M1	08・05・25 (日)	2時から	05・31 (土)	2時まで	盛岡・白百合
了	K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	N1	08・06・24 (土)	2時から	06・30 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	Y2	08・07・22 (火)	2時から	07・28 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	H1	08・08・18 (月)	2時から	08・24 (日)	2時まで	姫路仁豊野・マリア
	P3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	Y3	08・10・07 (火)	2時から	10・13 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	N2	08・11・04 (火)	2時から	11・10 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	P4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

## ミニ内観のご案内

### ★滋賀・唐崎・ノートルダム祈りの家で

二泊内観。参加費は2万円

了 ■2008年3月25日(火)午後1時から  
27日(木)午後4時まで

■2008年9月23日(火)午後1時から  
25日(木)午後4時まで

### ★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

一泊内観。参加費は1万円

了 ■2008年4月26日(土)午後2時から  
27日(日)午後4時まで

### ★内観経験者の集い(関東)

- 2008年4月20日(日)・10月5日(日)
- 聖母訪問会・三浦修道院にて
- 連絡：高階 dhk-ichiro@y7.dion.ne.jp

### ★ブラリと訪れ、静かな時間・内観したい人に

- 長野県下伊那郡大鹿村 小倉家
- 電話0265・39・2778

### ●問い合わせ

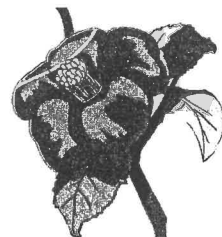
- 唐崎修道院シスター桂川・安井

電話 077-579-7580

ファックス 077-579-3804

- 内観黙想センター藤原

ファックス 072-802-5026



2008 年度真命山祈りの集いのご案内

年間テーマ：「聖霊による祈り」

祈りの集い(午前 10 時～午後 2 時 30 分)

- 7月 10日 『エピクレシス』：ミサでの聖霊の働き  
8月 休 み  
9月 11日 聖霊による生活：ローマ 5, 9-39  
10月 9日 『聖霊の実り』  
11月 13日 聖霊による祈り  
12月 11日 霊と花嫁が言う：『主よ、来てください』

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父(真命山院長)

※個人またはグループでの黙想会や研修会も

研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

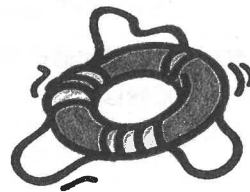
真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL0968-85-3100; Fax0968-85-3186

e-mail:shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

8月 は、靈性センターニュースを

お休 み致 します。



# リーゼンフーバー神父 講座・集い 案内

## 2008～2009年

- キリスト教入門講座** 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座** 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。  
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会** 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室  
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会** ●月曜日 17時20分～20時10分  
●木曜日 18時～20時30分  
上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。祝日を除く。  
3回坐り、間に講話があります。  
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心** ● 4月28日(月)20時30分～5月5日(月)13時  
6月29日(金)20時30分～22日(日)13時 } 秋川神冥窟。1泊2400円程度。  
8月9日(土)20時30分～16日(土)7時30分  
10月29日(水)20時30分～11月3日(月)13時 }  
2009年2月21日(土)8時30分～22日(日)15時30分 上石神井。5400円程度。  
● 5月31日(土)13時～6月1日(日)16時 } 宝塚市  
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時 }
- ミサ** 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)
- 黙想** ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。  
12月25日(木)はクリスマスの黙想(予定)。  
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)  
●通う聖操 8月23日(土)～8月31日(日) 18時～20時45分 上智大学内クルトウルハイム聖堂
- 祈りの集い** ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
4月12日、5月10日、6月7日、7月12日、8月9日、9月6日、10月11日、11月8日、12月13日、  
2009年1月10日、2月7日、3月14日  
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
- 黙想会** 6月14日(土)10時～15日(日)15時、9月13日(土)10時～15日(月)14時、12月6日(土)10時～7日(日)15時(東村山)、2009年1月31日(土)10時～2月1日(日)15時、上石神井。1泊5400-5600円程度。
- アガベ会** 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室  
4月19日(土)、6月28日(土)、10月12日(日)、2009年1月25日(日)
- クリスマス会** 12月20日(土) 16時30分聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時岐部ホール。要申し込み。  
**クリスマスのミサ** 12月23日(火) 14時～ 上智大学内クルトウルハイム聖堂



問い合わせ・  
連絡先

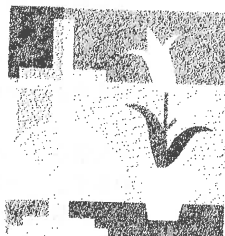
クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)  
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056  
[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/index.html](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html)

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2008年～2009年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

### 各回のテーマ

- 6/27 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/4 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/11 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/18 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/25 イエスの受難—その史実と意図
- 7/26 感謝のミサ(15時 上智大学内クルトウルハイム2階)



## リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2008年～2009年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

### 各回のテーマ

- 7/1 「神」 世界の根源—神存在の確認
- 7/15 人格の目標—神経験の多様な形
- 7/26 感謝のミサ (15時、上智大学内クルトウルハイム2階)
- 7/29 「私は在る」—「それ」・「彼」・「汝」としての神
- 8/19 「人間への神の関わり」 神の創造的自由—世界に向かう神 (クルトウルハイム2階)

#### 《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会 (四谷駅前) 信徒会館3階アルペホール

電 話 03-3263-4584

# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を  
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

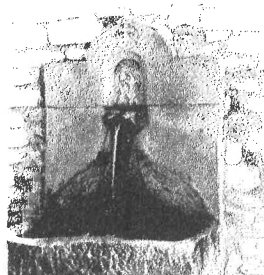
2008年10月18日(土)

講話 伊従信子 ・ 片山はるひ

\* 次回の予定 2008年11月8日(土) \*

午後2時より 講話・祈り・分かち合い  
午後5時半 主日のミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の霊性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel : 077-579-7580

Fax : 077-579-3804

E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。

琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

了 ① 2007年12月27日(木)～2008年1月4日(金)

② 2008年7月22日(火)～7月30日(水)

③ 8月16日(土)～8月24日(日)

④ 9月1日(月)～9月9日(火)

⑤ 10月18日(土)～10月26日(日)

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

了 ⑥ 2008年1月18日(金)～1月20日(日)

了 ⑦ 2月22日(金)～2月24日(日)

了 ⑧ 4月11日(金)～4月13日(日)

了 ⑨ 5月9日(金)～5月11日(日)

了 ⑩ 6月27日(金)～6月29日(日)

⑪ 9月5日(金)～9月7日(日)

⑫ 10月3日(金)～10月5日(日)

⑬ 10月10日(金)～10月12日(日)

⑭ 10月24日(金)～10月26日(日)

⑮ 11月7日(金)～11月9日(日)

他の黙想会が行われている場合があります。

C. 自己発見から神へ I 【講話と実習】

了 ⑩ 2008年2月22日(金)～2月29日(金)

⑪ 10月1日(水)～10月8日(水)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 上記の日程以外の日、個人で黙想をなさりたい方は、  
問い合わせてください。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・ブロードニヤック (メソヂス宣教師) 安井 昌子 (ノートルダム教育修道女)  
菊池 陽子 (ノートルダム教育修道女) 松本 佳子 (ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 但し、それ以前に  
満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。  
問い合わせは、電話 または、Eメールを ご利用ください。

# 奥村一郎

## 全9巻 選集

四六判・上製・平均240頁 各巻定価 2,100円  
オリエンズ宗教研究所

深い信仰と豊かな靈性、  
透徹した知性が織り成す  
奥村神学の全貌

祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の靈性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の靈性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。

——著者による「刊行にあたって」より



奥村一郎 ● カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。



### 【全9巻の主な内容】

第1巻 慈悲と隣人愛 (解説) 西村恵信 刊行済  
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻 多文化に生きる宗教 (解説) 橋本裕明  
大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ 刊行済

第3巻 日本の神学を求めて (解説) 小野寺 功  
日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」

第4巻 日本語とキリスト教 (解説) 阿部仲麻呂  
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ 刊行済

第5巻 現代人と宗教 (解説) 鶴岡賀雄  
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育 刊行済

第6巻 永遠のいのち (解説) 八木誠一 刊行済  
聖児復帰／人間の栄光と悲慘／信仰と苦しみ／十字架の秘義

第7巻 カルメルの靈性 (解説) 高園泰子 刊行済  
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレズと東洋的靈性

第8巻 神に向かう祈り (解説) 高橋重幸  
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者

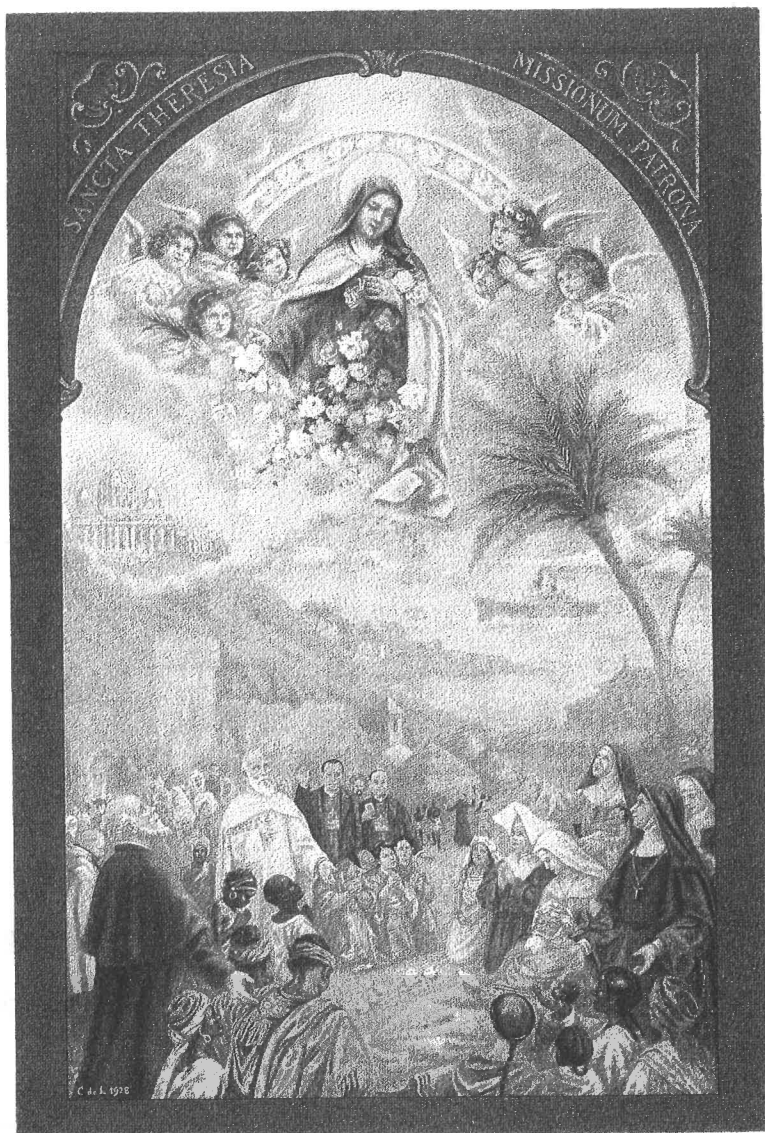
第9巻 奉獻の道 (解説) 宮本久雄  
清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の靈性

順次刊行中 2008年6月完結予定



# リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

## 記念御絵



\* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- |                  |        |
|------------------|--------|
| A. 6cm×10.5cm    | (¥30)  |
| B. ハガキ           | (¥100) |
| C. 25.5cm×30.5cm | (¥300) |

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにて  
サイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

### 》投稿規程《

- \* 締切り：原則的に毎月10まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- \* 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)宛にお願いいたします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
  - ④ 連絡先等。
- \* 寄稿連絡は、<sup>くのり</sup>九里 彰神父宛にお願いいたします。！住所が変わります！  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院  
Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

**YAHOOで「カルメル霊性センター」を探索してください！！**

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

## 『靈性センターニュース』ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。(これは郵送料です。)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛修道院  
「靈性センターニュース事務局」

### 「上野毛靈性センター」への献金のお願い

なお「靈性センターニュース」は現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等の仕事しております。ご希望の方へ無料で配付しておりますが、コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

\* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル靈性センターニュース

通信欄に「靈性センターニュースへの献金」とご記入ください。

\* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



### 編集後記

秋葉原で無差別の殺傷事件があった。7人が死に、10人が重軽傷を負った。犯人の25歳の青年は、現実の世界でもインターネットの世界でも、孤独であったという。彼自身の人格形成がどこかでゆがみ、人との関係が結べなくなってしまったためと思われるが、孤独ほど人間にとって耐えがたいものはないということの良い例かもしれない。彼の場合、それが多くの人を殺めるといふとんでもない犯罪へと発展してしまった。

ヘンリ・ナーウエンは、孤独と孤立を区別している。人を単に孤立させる孤独は、確かに問題だが、彼の言う孤独は、心の内奥で神と交わるための空間のことである。その孤独は、私たちが神の内にいこわせ、沈黙のうちに靈的糧で養ってくれるのである。この孤独があるならば、人はたとえ孤立したとしても、平和と喜びの内に生きることができるだろう。

神よ、たとえ死のかげの谷を歩んでも、私は災いを恐れない。  
あなたが私と共におられ、あなたの鞭と杖は私を守る。(詩23)

(P. 九里)

